



常磐会報

第44号

平成24年11月22日

発行所

福岡県行橋市南大橋4-5-1

京都高等学校常磐会

印刷・デザイン

(株)サルト



京都高等女学校校旗



京都高等学校校旗

目次

ごあいさつ	2
平成24年度常磐会総会を終えて	3
進路概況	4
定時制近況報告	4
部活動活動状況	5
恩師からのおたより	6
卒業生からのおたより	6
芳名録	7
繋 みらいへ	8
振り込め詐欺の注意	8





ごあいさつ

常磐会会長 若山直樹
(高校22回生)

常磐会会員の皆様にはますますご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

本年度は高校32回生を中心として、45回生、57回生、定時19回生の皆様が総会の当番を務められました。総会実行委員会の皆様は本年度総会の成功へ向けて着々と準備を進めてこられました。まだまだ東日本大震災の影響を受けた経済情勢の中、広告協賛のお願いは大変なご苦勞をなさったのではないかと思います。中村浩行実行委員長を始め、委員の皆様のご努力、ご苦勞に深い敬意を表します。また、快くご協賛をいただいた皆様には、この場をかりまして厚く御礼を申し上げます。皆様からの協賛金は今年度総会の運営を始め、常磐会よりの母校京都高校の教育活動への援助へと有意義に活用させていただきました。誠にありがとうございました。

さて、母校の歴史を振り返り

ますと、大正6年4月、京都郡立京都高等女学校に始まります。その年の6月に「常磐会」も誕生しております。「ときわ」とは「永久不変」という意味を持つ言葉であり、「いつまでも変わらない友情を育む」との思いで同窓会の名称として選定されたようです。戦後、昭和22年10月に新制の福岡県立京都高等学校に生まれ変わり、翌年の4月、高校第1回の入学式が行われ、それ以降、今日まで脈々と歴史が受け継がれて参りました。いよいよ4年後平成28年には、創立100年という大変重みのある節目を迎えます。その意義を深くかみしめつつ、母校京都高校の今後ますますの発展を同窓会「常磐会」として支えて参りたいと思っております。

「平成24年度常磐会総会」が盛会に開催されましたことに感謝し、ご挨拶と致します。



ごあいさつ

学校長 中村 潤

本年四月一日付で、伝統ある京都高校の校長を拝命いたしました中村と申します。昭和二十九年に生まれてから、大学卒業まで鹿児島に在任し、英語教師として福岡県に採用され、三十六年目を迎えております。

今までの教師人生は、教諭として八幡工業高校で七年、中間高校で十八年、教頭として東筑高校で二年間、八幡高校で四年間、その後県教委の人事管理班で二年間、校長として中間高校で二年間を過ごし、このたび京都高校へ来させていただきます。

曜日の関係から、四月二日に県庁において教育長から正式に京都高校の校長としての辞令を拝受し、京都高校の正門を入ったとき、長く輝かしい伝統ある京都高校の静寂な中に厳然として威光を放つ雰囲気を感じました。それと同時に、生徒諸君の

充実した高校生活と一人一人の夢の実現のために、微力ながら自分の全身全霊を傾けて努力することを、決心した次第です。

昨年の東日本大震災以来、人として生きていく上で、絆の大切さを日本に留まらず、世界中の人々が再認識しました。絆の文字が表すように、一人のもつ半分の糸をもう一人とつないでいくことから、一本の糸となり、先代からの縦糸と、同時代の仲間の横糸が織り合わされて、一枚の布となるように、京都高校の先輩諸氏の縦糸と、今の京都高校に通う生徒、その保護者、そして職員の横糸で見事な錦絵が完成できますことを祈念いたしております。そのために、常磐会の皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度常磐会総会を終えて

2012年度常磐会総会実行委員長 中村浩行

たくさんの方のご支援・ご助力を頂き、32回生・定時制19回生・45回生・57回生の実行委員の力を結集して、2012年度常磐会総会が無事終了致しましたことをご報告申し上げます。皆様、ありがとうございます。

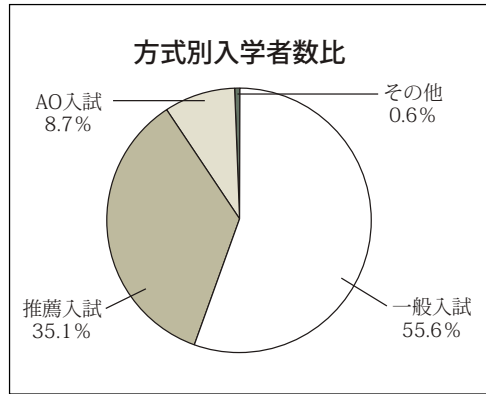
武田邦彦氏による「次世代に伝えたい エネルギー・環境問題」をテーマにした記念講演も大好評でした。素晴らしい講演を頂いた武田先生、ご来場頂いた皆様に心よりお礼を申し上げます。

総会後の懇親会も、来賓の皆様を始め、たくさん先輩、後輩の皆様にご出席頂き、おかげをもちまして大盛況のうちに終了することができました。常磐会の皆様、本当にありがとうございました。



平成二十三年
進路概況

進路指導主事 仲江 聖吾



右図は、入試方式別の入学者数の割合です。推薦入試やAO入試など一般入試以外で入学する学生が約半数にのぼることがわかります。私が受験したときには国公立大学は一校しか受験できませんでした。それから、この割合をみると改めて驚かされます。学力一辺倒の入試から、多面的に入学者を選考するというのが本来の目的だとは思いますが、定員割れによる学校存続のため早い時期から生徒を確保しておくために利用されているというのも事実です。さて、本校の昨年度の合格

平成23年度 国公立大学合格者数 (既卒含む)

大学	学部	合格者数	大学	学部	合格者数
電気通信	情報理工	1	長崎	環境科学	1
東京海洋	海洋工	1		文	2
横浜国立	経済	1		教育	2
名古屋工業	工	1	熊本	医	2
京都	工	1		薬	1
	外国語	1		理	1
大阪	理	1		工	4
	基礎工	1	大分	経済	1
鳥取	工	1		医	2
島根	総合理工	1		工	5
	環境理工	1	宮崎	工	3
岡山	農	1		法	1
	教育	2		文	1
広島	法	1	鹿児島	教育	1
	工	1		理	1
	人文	1		工	2
	経済	2		農	1
山口	医	1	琉球	医	1
	理	4	静岡文化芸術	デザイン	1
	工	6	兵庫県立	理	1
	農	2	岡山県立	情報工	1
愛媛	法文	1	県立広島	生命環境	1
高知	人文	1	山口県立	国際文化	1
	文	1	下関市立	経済	4
	法	1		外国語	5
	経済	4	北九州市立	文	6
	医	2		法	3
	理	4		経済	6
	工	7	九州歯科	国際環境工	4
	芸術工	3		歯	3
九州工業	工	6	福岡県立	人間社会	2
	情報工	4		看護	3
福岡教育	教育	11	長崎県立	看護栄養	1
佐賀	理工	1	名桜	国際	1
	教育	1	総計		162
	経済	3			
長崎	医	1			
	工	5			

状況・就職状況です。国公立大学合格者数は若干少なかったものの、京都大学1名、大阪大学3名、九州大学には22名も合格しました。県内の多くの高校が九大で苦戦したということを知っていますが、その中で本校の状況は注目を集めているところです。

最後になりましたが、常磐会におかれましては、本校教育にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。常磐会のますますのご発展を祈念いたします。

上級学校合格状況・就職状況

平成23年度	現役	既卒	合計
国立大学	99	20	119
公立大学	40	3	43
私立大学	241	70	311
準大学(防衛大学校等)	9	1	10
国公立短大	0	0	0
私立短大	11	0	11
準短期大学	1	0	1
各種学校	50	0	50
事務営業	0	0	0
技能	0	0	0
公務員	0	6	6
合計			

主な私立大学合格者数

私立大学名	人数
慶應義塾大学	1
青山学院大学	1
東京理科大学	1
早稲田大学	2
明治大学	3
立教大学	2
同志社大学	4
立命館大学	20
関西大学	7
産業医科大学	2
西南学院大学	15
福岡大学	62

定時制
近況報告

まず、平成二十三年年度の生徒の進路状況をご紹介します。二十三年度は四年修了生が九名、三年修了生が二名、計十一名の生徒が卒業しました。卒業生のほとんどは、在学中からの仕事を継続していますが、学校を通じての新規就職者が一名、進学者が二名でした。

次に、平成二十三年年度の特徴ある行事・活動をご紹介します。

生活体験発表表北九州地区大会は本校から、三年生一名、一年生一名が出場し、今までの経験を発表しました。

文化部関係では、四月に行われた北九州芸術祭(書道部門)において、二名が特選、三名が入選となりました。行橋市人権週間啓発作品(書道の部)において、一名が教育長賞、三名が入選となりました。また、県高等学校芸術・文化連盟(書道部門)で三名が優秀賞でした。日頃の練習の成果です。

本年度は、新入生三十六名、転編入生三名を迎え、全校一〇四名の生徒数でスタートしました。生徒たちは、仕事に勉学に全力で励んでいます。

部活動活動状況

体育部		男子	女子
1	バレーボール部	14	15
2	バスケットボール部	27	20
3	野球部	36	4
4	テニス部	18	12
5	陸上部	18	10
6	柔道部	1	0
7	剣道部	6	4
8	サッカー部	36	3
9	バドミントン部	17	22
10	応援団部 (リーダー)	0	0
11	応援団部 (バトン)	0	23
12	水泳部	5	1
13	卓球部	14	2
14	空手部	4	3

文化部		男子	女子
1	演劇部	0	0
2	華道部	0	3
3	琴曲部	0	1
4	コーラス部	0	2
5	茶道部	0	17
6	写真部	5	2
7	囲碁・将棋部	8	3
8	書道部	1	4
9	新聞部	1	5
10	煎茶部	0	6
11	天文部	0	5
12	美術部	1	32
13	ブラスバンド部	15	51
14	文芸部	0	3
15	放送部	2	12
16	料理部	4	48
17	英語 (E S S)	1	16

主な戦績 *平成23年4月～24年1月までの期間での県大会以上

《体育部》

陸上部

○第58回福岡県高等学校陸上競技対校選手権

県大会出場4名 男子三段跳 (1名)
 男子走高跳 (1名)
 男子走幅跳 (1名)
 男子やり投 (1名)

○第59回福岡県高等学校新人陸上競技対校選手権

県大会出場6名 男子三段跳 (2名)
 男子走高跳 (1名)
 男子走幅跳 (1名)
 男子やり投 (1名)
 女子走高跳 (1名)

サッカー部

○新人戦 県大会出場

卓球同好会 (平成24年度より卓球部)

○平成23年度第66回国体卓球競技少年の部
 男子シングルス 県大会出場

○平成23年度全日本卓球選手権大会 (ジュニアの部)
 男子シングルス 県大会出場

《文化部》

写真部

○高文連九州高文祭県大会 特選 (1名)

囲碁・将棋部

○全国高等学校総合文化祭 将棋部門福岡県予選
 男子団体戦優勝 全国大会へ
 女子個人戦2位、3位 全国大会へ

○平成23年度全国高等学校囲碁選手権大会 福岡県予選
 男子団体戦6位
 女子団体戦2位

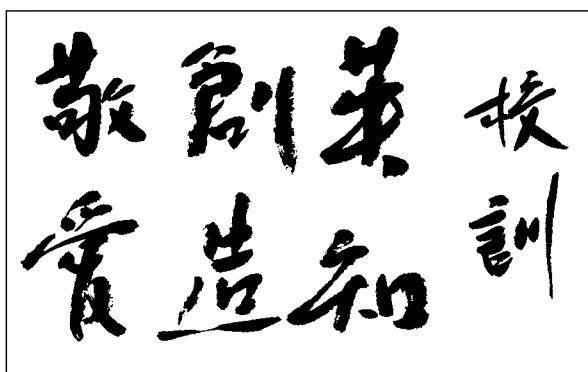
○平成23年度全国高文連将棋新人大会 福岡県予選
 男子個人戦準優勝 全国大会へ
 (全国ベスト329位)
 女子個人戦優勝 全国大会へ

放送部

○福岡県高校放送コンテスト 県大会出場 (1名)

美術部

○平成23年度第20回まんが甲子園全国大会 決勝戦進出



恩師からの
おたより



盛会を祈って

3年1組担任
都 甲 武 芳 先生

常磐会総会が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げますとともに会員の皆様方のご健勝をお祈りしております。
今年当番期の三十二回生は、私の最後の担当学年であることから特に印象に残る学年であります。

例えば昭和五十年代初頭の京都高校は、校舎増改築の最中であり、木造校舎使用の最後の学年ではなかったかと思えます。木造校舎と本館を行ったり来たりする職員室等の引越作業を担当したのはこの学年でした。冬の寒稽古は中止となり、水泳授業は市民プールでした。京都体操が市民体育祭に特別出演したり、校門前の深川食堂の火災や、集中豪雨で学校周辺が浸水し、電車も新田原―苅田間が不通となり休校したこともありました。そして、前年から始まった共通一次試験(現センター試験)の自己採点結果が思ったより悪く心配しましたが、結果的に普通科六学級全てから国立大学合格者を出し、前年より以上の進学成績を残して卒業させることが出来て、ホッとしたのを覚えています。

ところで、最近の私は退職後に始めた書道の稽古(古典の臨書)を中心に毎日を送っています。年若い方も続けられると考えると始めた趣味ですが、写真の作品のように、県展で賞を戴いたりすると欲が出て、更に頑



張ろうと思っています。脊柱管狭窄症と診断され、整形外科に通院しながらではありますが、毎月定期的に高校時代の同期生が集まる会が開かれ、Uターン組も含めて、常に十数名が顔を揃えて、健康の話、遠くの友人達の近況等にぎやかに情報交換をしています。二次会ではカラオケでストレスを楽しんでいます。全く下手ですが、上手の足手まといにならぬよう、元気に緑のコースを歩ける幸せを感じ、互いに健康であることを確認し合っています。来年は後期高齢者の仲間入りですが、この同期生仲間との絆を大切にしながら歳をとっていくと考えています。
最後になりましたが、京都高校と常磐会の一層の発展を祈りながら筆を置きます。
平成二十四年四月

卒業生からの
おたより



同窓会に寄せて

未だ青は藍より青からず

5組 畠 田 俊 治



本寄稿の話と同期の森琢磨君、夕田君からメールを貰った時、良くぞネットで探してくれたと感謝しつつも、同時に33年ぶりと聞いて改めて愕然とした。勿論今までも思わないでもなかったが、会報見る度に、何も貢献せずで申し訳ない気持ちだった。ついこの間の事と思っていた思い出箱の様な「あの時」は、既に残り人生よりも長い時間が経つていようとは。

人生やり直すとしたら高校の入学式からと常々思うほどに蹉跎の多い高校時代は、それだけに思い出も深く多い。先生方の顔も殆ど覚えていいるし、大体の男子の顔と声を思い出せる。名前は怪しいが。女子もそれぞれ顔を思い出すに胸がキュンとする。そして多くの思い出と共にいつも迷える自分がある。今にして思えば「将来の為に費やす自分」と「今をキチンと生きたい自分」の狭間で右往左往していたのだなと微笑ましく思う。
1年の宅浪の後、大学、就職と上手く引つかり、その後も、幸いにして人と機会に



生まれ、お陰様で結構堅実に且つ面白く生きてこれた。ここ12・3年は中国やタイをベースメントにしての東南アジアや豪州で一端の仕事をして来たがタイではクーデター、動乱、大洪水などもあったり、ビジネスもエキサイティングで思い出深い。ビジネスもさることながら特に日本と言うものの、そこに産した自分に対峙出来たのは貴重な財産であった。
とは言え、母校や後輩に貢献出来るものなど無く、同級生、ましてや恩師方に恩返し出来る様な学も仕事も成らず、まだ若い若造で申し訳ない気持ちである。今般同窓の会に触れ、改めて心温まる何事かを知って嬉しい。微力ながらも恩返し出来ればと思う次第。
と同時にフルサトの常磐会と京都高校が更に発展されるよう祈念してやみません。

<p>第35回 (昭和58年3月卒業) 羽広 太 井上(古野) 恵美</p> <p>第36回 (昭和59年3月卒業) 平木 圭 邦 高尾 美 穂 大嶋(平井) 智子 中村(都甲) 希代美</p> <p>第37回 (昭和60年3月卒業) 政時(工藤) 和泉 中島(恒成) 直美 羽谷(森) 純子</p> <p>第38回 (昭和61年3月卒業) 百 富 勝 彦</p>	<p>植山(光永) 千夏 岩井 義 広</p> <p>第39回 (昭和62年3月卒業) 小 河 勇 椋 本 智 垣内(緒方) 玲子 湊(田中) めぐみ 浜尾(高田) 真代 南(高山) 由佳 犬塚(米田) 幸枝</p> <p>第40回 (昭和63年3月卒業) 泉 裕 子 高 城 直 美</p> <p>第41回 (平成元年3月卒業) 村 上 撰</p>	<p>第42回 (平成2年3月卒業) 川 内 寛 武 内 勇 司 矢加部(中嶋) たづみ 福 井 由 美 子 杉政(湊) 貴美子</p> <p>第43回 (平成3年3月卒業) 藏 田 勉 坂 寿 美 雄 高 野 義 信 藤 井 昭 裕 渡 邊 泰 章 守 涼 子</p>	<p>第44回 (平成4年3月卒業) 原 田 力 横 溝 耕 平 川浦(秋吉) 純子 橋 本 祥 子</p> <p>第45回 (平成5年3月卒業) 竹 森 広 樹</p> <p>第46回 (平成6年3月卒業) 有 吉 寛 松 ま ゆ り</p> <p>第47回 (平成7年3月卒業) 崎 田 嘉 寛 竹 内 友 隆 八 友 樹</p>	<p>安 伊 智 彦 森 里 美 藤 史 惠 里 美 神 英 子 大 奈 穂 子</p> <p>第48回 (平成8年3月卒業) 畠中(高畑) 有紀</p> <p>第49回 (平成9年3月卒業) 二 瀬 量 規 五 関 由 貴 子 安 永 由 紀</p> <p>第50回 (平成10年3月卒業) 山 口 裕 平 若 山 央 樹 高 上 晶 子 南 真 由 美</p>	<p>第51回 (平成11年3月卒業) 猪 股 悟 西 村 嘉 雄 尾 形 佳 香 庄田(神崎) 比呂</p> <p>第52回 (平成12年3月卒業) 西 川 正 芳 柿 野 千 穂 新宮領 千 佳 山崎(藤田) 優子 藤 本 麻 紀 子</p> <p>第53回 (平成13年3月卒業) 田 邊 雅 彦 早 川 知 毅</p>	<p>第54回 (平成14年3月卒業) 一 木 訓 後 藤 裕 樹 新宮領 晃 平 古 庄 彰 宏 早 川 舞</p> <p>第55回 (平成15年3月卒業) 岡 野 博 匡</p> <p>第56回 (平成16年3月卒業) 山 岡 良 太 山 野 正 敦 山 本 奈 津 子 山 木 木 央</p>	<p>第57回 (平成17年3月卒業) 小 松 正 宣 光 永 宜 玄 湯 川 琢 磨 川上(川上) 京子 橋 本 夏 美</p> <p>第58回 (平成18年3月卒業) 片 峯 晶 平 白 水 純 平 高 橋 純 太 細 川 一 斗 原 山 野 奈 緒 美 子</p> <p>第59回 (平成19年3月卒業) 荒 金 正 和 船 津 崇</p>	<p>今 後 吉 村 藤 田 是 藤 田 愛 平 大 人 晃 江 本 昇 智 勇 田 中 橋 家 高 古</p> <p>第60回 (平成20年3月卒業) 江 田 高 古</p> <p>第61回 (平成21年3月卒業) 尾 郷 航 一 田 口 翔 圭 火 箱 良 太 山 井 門 本 惠 里 加 井 奥 靖 子 田 中 野 奈 津 貴 由</p>	<p>第62回 (平成22年3月卒業) 佐 藤 正 基 末 永 永 仁 山 田 静 佳</p> <p>第63回 (平成23年3月卒業) 上 田 並 弥 士 佐 藤 雄 馬 畑 伸 一 郎 弓 木 和 貴 木 東 史 友 美 松 本 郷 友 子 原 口 寿 花 山 内 真 章 美 山 由 香 里</p>
--	--	---	---	---	--	--	--	--	---



ときはの心と伝統を未来へ

2016年(平成28年)京都高校は創立100年を迎えます。大正6年京都郡立京都高等女学校として創立。学制変更により昭和22年福岡県立京都高等学校として新生。現在に至るまで地域の多くの方々に支えられてきました。常磐会はこれからも地域のみならず、恩師の方々に感謝しさらなる100年を目指し、ときはの心と伝統を未来へ繋ぎます。

振り込め詐欺の注意

ここ数年、振り込め詐欺被害の報告が同窓会へ寄せられています。同窓会事務局より、個別に電話で振込をお願いしたり、お知り合いの同窓生の住所等をお聞きすることはありません。不審な電話には十分ご注意ください。また、電話以外の手口も近年大変巧妙になり、はがき等でも同窓会を装うケースが報告されています。くれぐれもご注意ください。

